



肢体不自由特別支援学校（小学部）に在籍する児童への支援

① 聴覚障害特別支援学校への支援の要請

【A先生】



肢体不自由特別支援学校

聴覚障害を併せ有する児童を担当しています。感覚過敏があるためなのか、補聴器自体が耳に合っていないのか、私の着け方が誤っているのか……。補聴器を持っているけど、着けるのを嫌がります。保護者も悩んでいますので、聴覚に障害がある児童のコミュニケーションについて相談したいです。

【B先生】



肢体不自由特別支援学校
コーディネーター

特別支援教育コーディネーター
のB先生に相談

◆ 聴覚障害特別支援学校の「きこえの支援」を活用してみましょう。私から聴覚障害特別支援学校の特別支援教育コーディネーターに連絡をとれるように、管理職にお願いをしておきます。

③ 具体的な支援内容（2～3回／年）

◆ 本人に応じた測定方法を試み、おおよその聴力を推定し、補聴器の調整をした。

例：検査音は聞き取りづらいので、太鼓の音を聞かせて反応を見た。



◆ 音への注意を引き出すよう支援した。

スピーカーに手を当てて振動することを教え、スピーカーを触る遊びを一緒に行った。

◆ 補聴器を嫌がる理由について相談した。

顔周りにものが触れるのを嫌がる、補聴器を装用しても音に気付いていない状況、などが考えられた。

◆ 手話を用いたコミュニケーション方法を模索した。

■ 振動を楽しむが音を捉えることは難しい。伝えたい気持ちはあるが方法が分からない様子。
→家庭と学校で共通した簡単な手話を使用する。
→補聴器は本人が嫌がる時には装用しない。音楽の授業など音を聞きたい時に装用する。

本児の
場合

② 支援方針

【C先生】



聴覚障害特別支援学校
コーディネーター

「きこえの支援」を利用して、支援を行いましょ。支援の形態としては、以下の2つがあります。

- ① 聴覚障害特別支援学校への来校（本人、保護者）
- ② 在籍校への巡回支援

★「きこえの支援」とは？

- ・ 聴覚障害特別支援学校で、聴力測定及び補聴器調整を実施します。長期休業中であれば、測定室や時間に余裕があり、複数の教員で担当するので、重複障害の児童・生徒も測定を受けやすいです。
- ・ 在籍校への巡回支援では、授業見学後に、教室環境や当該児童への配慮事項などについて、ケース会を行ってお伝えしています。
- ・ 聴覚障害特別支援学校から地域の特別支援学校へ進学した児童・生徒の聴覚管理、特別支援学校への巡回支援を行っています。

④ 連携のポイントとその成果など

保護者の協力のもとで、在籍校で行う支援、聴覚障害特別支援学校で行う支援の整理をしました。

- ・ 聴覚障害特別支援学校では…基本的な感情表現や興味のある人や物を聞き取り、学習場面で使うことのできる手話を提示した。
- ・ 在籍校では…学習場面や、日常生活場面で、手話を交える。音楽の時間に補聴器を装着する。

- ◆ 聴覚活用は、聴力だけではなく、一人一人の実態やコミュニケーション環境などを考慮して考えることが必要であることが分かりました。
- ◆ 簡単な手話は、聴覚に障害のある児童だけでなく、他の児童にとってもコミュニケーション手段となるので活用していきたいと思います。



<学校間連携事例>知的障害特別支援学校のセンター的機能の活用



聴覚障害特別支援学校（中学部）の作業学習の充実

① 現状

聴覚障害特別支援学校中学部で重度・重複学級の担任をしています。作業学習の見直しを行いたいと考えていますが、均一した製品ができなくて困っています。

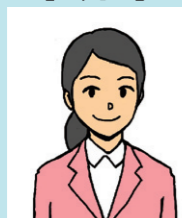
また、将来の自立と参加に向けて、中学部段階で、作業技術や作業意欲などの必要な事柄をどこまで身に付けさせたらよいか分からないので相談したいです。

【A先生】



聴覚障害特別支援学校

【B先生】



聴覚障害特別支援学校
コーディネーター

知的障害特別支援学校の経験者を中心に、作業学習の改善についての校内研究会を行きましょう。

B知的障害特別支援学校には、作業学習に実績のある指導教諭がいらっしゃいますから、授業を見学させて頂きましょう。

② 校内研究会と授業見学

校内研究会の実施

作業内容の見直しと生徒の実態把握

- ・ 障害の特性に合わせた新たな作業種の検討を進める
- ・ 授業研究を通して、具体的な授業改善を行う

知的障害特別支援学校の見学

作業学習の見学ポイント

- ・ 作業環境は？
- ・ 補助具の効果的な利用法は？
- ・ 工程分析表は？



C先生

知的障害特別支援学校指導教諭

- ◆ 作業学習に参加する喜びや、協力して完成する成就感を十分に味わえるようにすることが大切です。
- ◆ 作業学習の製品が生活の中で役立っていることを知らせることで、働く意欲を高めていきましょう。
- ◆ 作業学習での目標をもち、自ら評価できるようにしましょう。

③ 知的障害特別支援学校との連携

<授業見学の感想>

生徒の動線がはっきりしていて、とてもスムーズに作業が行われていました。なにより、生徒が目標をもって作業学習に取り組んでいました。

一人一人の実態に応じて補助具が開発されているので、一定の品質を保ちながら役割をもって作業が行われていました。



★ 本校で作成した作業工程表、OJT指導案をもとに、指導教諭からアドバイスを受ける。

<指導教諭からのアドバイス>

自分から作業の報告・連絡・相談ができるようにしています。生徒の中で作業チームを選出し、生徒同士の学びあいも大切です。



④ 期待される連携の効果

- ◆ 作業目標を生徒が分かるようにしたことで、丁寧に作業を進めるようになりました。
- ◆ 自分で振り返りができるように作業日誌を改善したことで、次の目標を持つことができるようになりました。
- ◆ 作業学習の主任の授業の中での役割を明確にしたことで、生徒が自ら報告できるようになりました。



◆ 知的障害特別支援学校との連携を通して、作業学習の目標、ねらい、授業の組み立て方などが参考になりました。そのことで、聴覚障害特別支援学校の生徒の実態に応じた作業を検討することができました。